

2018年12月2日14:00～17:00

京都大学東南アジア地域研究研究所・東南亭

科研(A)アジアの在地の協働によるグローバル問題群に挑戦する実践型地域研究

バングラデシュ農村の変化

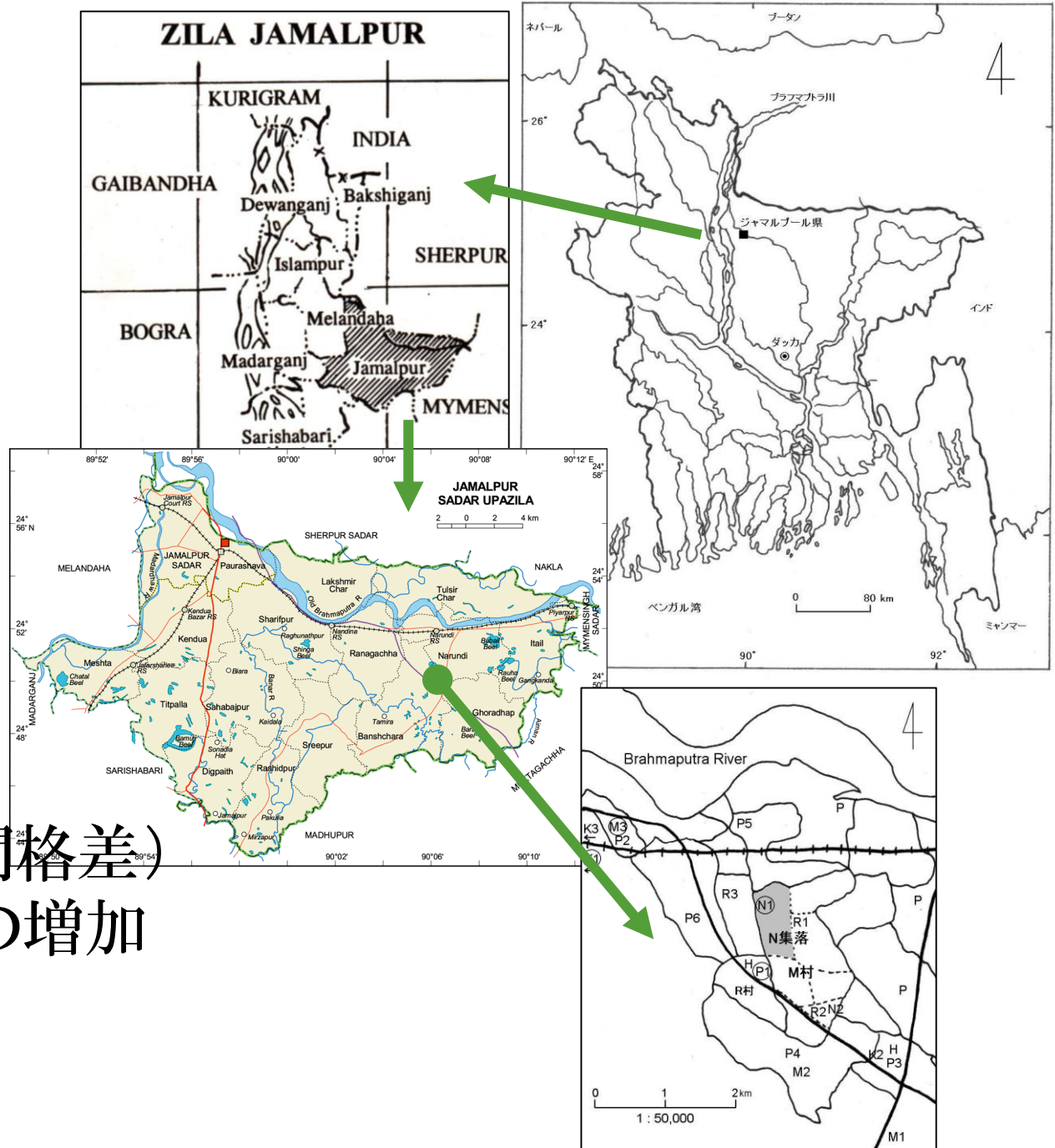
南出 和余

(桃山学院大学)

ジャマルプール県中央郡 M村N集落

バリ:11(29)
世帯:82
人口:約400人

- 年間を通して農業が可能
- 自給自足農家の割合が高い
- 1991年～NGOの小学校
(就学経験識字率の世代間格差)
- 200年代以降の海外出稼ぎの増加
→ 農業の担い手の変化



土地利用調査結果

- 61世帯対象(NGOに依頼)
- 所有農地面積:平均 325 Shotansho/Decimal(土地無 5件)

- 稲作利用:平均 303(93%) 要確認

- 樹木栽培:10件(うち7件は2010年代~)

Mango, Olive, Jackfruit, Blackberry, Akashi, Mahogany, Butternut, Litchi

- ボンドック(Lease Out):23件

- 100%4件 / 50%以上8件 / 50%以下11件
- 22件が2010年代~
- 理由:別の土地購入、経済工面
- 約2000~7000BDT / 1Shotansho(かなりのひらき)

- ボンドック(Lease In):7件(すべて2010年代~)

- バキ(Share Crops)

人口移動

	人口	村在住	海外	海外以外の不在
2004年	399人	352人	11人	36人
2009年	405人	311人	14人	<u>80人</u>

+2014年データ

+2019年(予定)

- 出稼ぎ者排出世帯:25軒
 - 県内都市部10軒(Agriculture) 月仕送り: 1,000~2,000 BDT
 - 県外7軒(Garment Work) 2,000 BDT
 - 海外7軒(Service Holder) 5,000~20,000 BDT
 - その他1軒(Business) 4,000 BDT
- 家屋の変化(土→トタン→レンガ)
 - 海外出稼ぎ家庭の経済成長シンボル→現在では海外出稼ぎ家庭以外でも(国内出稼ぎ+土地売買)
 - 電気の普及(2002年~)、ガスの普及(2014年~)

まとめ&今後の調査

- 稲作が主流であることに変化はなく、樹木栽培や養魚(養鶏も1軒)は追加的
- データには出てきていないが年によってはBRAC(中国)に稲作農地を貸す家庭も(農業労働者不足、日雇経費の高騰)
- 出稼ぎ増加による農業の担い手の変化(男性不在中の女性の労働)
- 出稼ぎ増加による土地価格の高騰

12月4日～3月半ばまでのバングラデシュ滞在中

- 質問紙調査の確認
- 個別追跡調査(とくに人の移動と生活の変化)
- 2004年から5年後との変化の整理

科研(基盤C)申請:「バングラデシュ農村社会変動に関する人類学研究
—原忠彦教授の民族誌を手掛かりに—」